

2

障がい者の参画する事例

北海道

01 北海道	○鶏卵	☞養豚	有限会社 くさなぎ農園	8
02 北海道	☞酪農	☞加工ほか	農事組合法人 共働学舎新得農場	10
03 北海道	○鶏卵	☞加工ほか	合同会社 農場たつか一む	14

東北・関東・北陸東海

04 青 森	☞肉牛		社会福祉法人 恩和会	18	
05 青 森	○鶏卵		農事組合法人 トキワ養鶏	22	
06 青 森	☞養豚	○鶏卵	☞加工ほか	長谷川自然牧場株式会社	24
07 千 葉	☞養豚		有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場	26	
08 千 葉	☞養豚		武井農場	30	
09 千 葉	☞養豚		株式会社 堀江ファーム	32	

近畿・中国・四国

10 奈 良	☞酪農	☞加工ほか	株式会社 植村牧場	34
11 鳥 取	☞肉牛		有限会社 とうはく畜産	38
12 鳥 取	☞加工ほか		大山乳業農業協同組合	40

九 州

13 佐 賀	○鶏卵	☞加工ほか	有限会社 伊東養鶏場／株式会社 アシスト佐賀	42	
14 佐 賀	☞養鶏		有限会社 石橋プロイラー／株式会社 ISN福祉サービス	44	
15 長 崎	☞加工ほか		株式会社 大光食品／一般社団法人 光	46	
16 長 崎	☞肉牛	☞馬	社会福祉法人 南高愛隣会	48	
17 鹿児島	☞養豚	☞肉牛	☞加工ほか	社会福祉法人 白鳩会／農事組合法人 根占生産組合	50



有限会社 くさなぎ農園

～新規就農をして福祉農園を開設～

北海道帯広市

くさなぎ農園は、北海道中央部の帯広市郊外で養豚や鶏卵採取をしている農園です。豚や鶏の自家配合飼料の利用やストレスの少ない頭数で平飼いするなど、食の安全と安心にこだわった生産をしています。園主夫婦は、理想の農業経営を行いたいと考えて、北海道で新規就農し、福祉農園を開設しました。障がいのある人7名が、日中はこの農園で作業をしています。豚舎の掃除や飼料の配合、給餌、水やりなどの作業を行います。地元の特別支援学校^{※1}から実習生を受け入れて、地域の基幹産業である畜産の仕事が卒業生の進路の選択肢に加わるように働きかけるなど、地域の障がい者就労推進に広く貢献しています。

法人経営概況

- ① 経営内容 養豚(黒豚)、採卵鶏(有精卵)
複合経営 長いも、鶏糞製造
- ② 労働力 14名
- ③ 法人形態 有限会社
多機能型事業所^{※2}(就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所^{※3})
- ④ 特徴
 - ▶ 1994年に新規就農(清水町)、2000年八千代町に移転
 - ▶ 飼料は、国産100%、特に地域の未利用資源を多く利用(カボチャや長芋を発酵させたものなど)、添加物等の心配のない自家配合飼料
 - ▶ 農園での作業のほか、畑作業の受託、フェルト(羊毛)作業など

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
7名、知的障がい
- ② 就労形態
就労継続支援A型事業所の利用者
労働契約を結ぶ雇用(賃金)
就労継続支援B型事業所の利用者
作業に応じた工賃
- ③ 通勤、住まい、食事など
通勤の難しい人は、農園内にある住居で共同生活(経営主の妻が代表を務めるNPOがグループホーム^{※4}を運営)

立地条件など

帯広市は、十勝平野の中央部、農業の盛んな地域です。くさなぎ農園は、帯広駅から車で45分、十勝山脈東側の麓に広がる農業地域にあります。



障がい者が主に担う作業

くさなぎ農園には、通勤のメンバーと、敷地内にあるグループホームで生活しているメンバーがいます。早朝や夕方の水遣りや採卵の仕事は、グループホームのメンバーが担当します。日中は、採卵や出荷のための卵拭き、パック詰め作業、水の補給などの作業を行います。午後は、エサやりと、翌日のための餌づくりなどを行っています。また豚舎や鶏舎の清掃を行います。

10～12月には、カボチャや長芋を用いた発酵飼料づくりを行います。大型機械を使う作業もあるため、作業時には注意を促しています。

受託作業も増えており、近隣の農家での除草作業や野菜の袋詰めなどを行います。



パーク（木の皮を細かくしたものを深く敷き詰めた豚舎）



平飼いの鶏舎

一日の作業

朝食前 — 水やり、採卵
 8時 — 朝食、休憩
 9時 — 通勤メンバー出勤
 午前の作業（休憩あり）
 12時 — 昼食
 13時 — 餌やり、翌日の餌づくり
 15時 — 通勤メンバー退勤、
 休憩、採卵
 17時 — 終業

取り組みの経緯と地域との関わり

代表は、道内での福祉農園での研修を経て、夫婦と障がい者1名の3名で養鶏を開始しました。現在の地に移転して畜産農家として新規参入後、福祉のサービス事業制度に則りながら、障がい者の就労できる畜産経営と福祉事業所の形を整えてきました。近隣農家に出かけて行う作業受託では、収穫野菜の袋詰めなど繁忙期の補助作業を担ったり、畑の草刈りを請け負うことにより、地域の農地管理という役割も果たしています。地域の農業者との関わりが深まることで、近隣農家からの評価も良好です。

●自家配合飼料のこだわり

近隣農家から規格外の農産物など売り物にならない食材を引き取り、地場農産品を活用した安全・安心な飼料を作り、豚や採卵鶏の飼養に供しています。飼料へのこだわりは、付加価値のある鶏卵や加工品の生産を維持しているのみならず、地域との関わりを一層強くしているようです。



自家飼料の配合作業

●羊毛加工の取り組み

近年ではA型に加えて、就労継続支援B型事業所の認定を得たこともあり、家畜飼養の仕事になじまない利用者のために、羊毛を手作業でスリッパなどのフェルト小物に加工する作業も開始しました。



コラム

特別支援学校との連携

農園の隣町の高等養護学校には、農業科があり担当教員の指導のもと、年間を通して野菜、きのこ、花などの栽培を行っています。進路指導では、毎年、現場実習を行っています。くさなぎ農園とは、実習生の受入れなど日頃から連携を図っています。この5年間では、卒業生の3割が一般就職しましたが、そのうち4名が農林漁業分野に進みました。



障がい者就労に関わる用語

- ※1 特別支援学校 → p.57
- ※2 多機能型事業所 → p.57
- ※3 就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所 → p.56
- ※4 グループホーム → p.56

関連情報

法人URL <http://www.t-owls.org/kusanagi/>
 所在地 北海道帯広市八千代町東1線180-9



養豚



鶏卵

北海道



農事組合法人 共働学舎新得農場

～‘自労自活’の精神で世界に通用するチーズを製造～

北海道上川郡新得町

共働学舎新得農場は、長野県で1974年に設立されていた共働学舎を新得町が誘致して1978年に設立されました。同年6月の入植以来、「自労自活」の理念のもと、障がい者と一緒に働き、搾乳とチーズ製造を主体とする共働農場としての経営が続けられています。組織としては、NPO法人共働学舎新得農場と農事組合法人共働学舎新得農場の2組織から構成されています。前者は主として生活の場であり、後者は農業生産、加工、販売という生産の場となっていますが、NPO法人もチーズ製造や日常の農作業などの生産活動を農事組合法人から受託しています。設立時に無償で借り受けた町有地約30haの2倍以上の面積になった畑で、2つの組織が相互に関わりながら、障がい者や触法者など社会適応が難しかったさまざまな人たちが一緒になって酪農を営んでいます。

法人経営概況

①畜産

酪農 乳牛ブラウンスイス85頭、ホルスタイン10頭
肉牛ブラウンスイス15頭、その他、豚40頭、鶏、羊40～50頭、馬

②野菜などの作物畑

3.5ha、家畜用飼料畑:43.8ha、放牧地:22ha、畑の総面積:120ha

③年間生産出荷量

牛乳340ト、チーズ330ト チーズ原料乳は牛乳を売却後、買い戻す
肉牛ブラウンスイス6頭 赤肉販売用、豚20頭 自家加工用
有機野菜4ha 約70名の協力会員に販売(年4回)

④従業員

79名(うち障がい者は40名、障がい者のうち20名が手帳^{※1}保持者;調査日時点)
共働学舎外部の人も約20名、ボランティア1～2名、パート5名も含まれる

⑤法人形態

農事組合法人、NPO法人
グループホームや就労支援事業の福祉制度にのせてない(手続きが煩雑)
手間のかかる事務手続きよりも生産性の向上を優先
NPO法人は、農作業の委託料と寄付で運営

⑥特徴

共働作業、報酬は平等に分配(生活費1万円/月は全員に支払、年金受給は個人)
「来るもの拒まず、去る者追わず」の精神、社会適応困難者のほか、チーズづくり、有機農業に関心のある人、海外留学生らも共同生活、共同生産を行っている

障がい者の就労状況と課題

- ▶メンバー各人には「今日は何をするのか」と問いかけ、自主的に行動を選択させる。
- ▶「できることからする」という働き方のスタイルを採用して自主性を育てる。
- ▶細かなルールやマニュアルはない。自らの意志と選択による行動を大切にしている。
- ▶メンバーは、短期間で自宅に戻る人、1～2年間新得農場で過ごすことで自信をつけて就職していく人、いつまでも留まることを希望する人など様々で、人数も常に変動。
- ▶基本的な作業時間は、午前が9～12時、午後が14～17時の6時間/日の労働
- ▶労働契約はしておらず、保険は国民健康保険で対応
- ▶作業は相互に役割分担
- ▶早朝の作業は寮で生活する独身者が交代で担当。10組の家族も敷地の奥に住居あり
- ▶メンバーの家族も共同作業に参加。女子寮も完備、代表の妻らが世話役
- ▶2年前には実現できていた年間400トンの出荷乳量が当面の目標、将来は飼料の輸入穀物依存をやめ、放牧、牧草・デントコーン・穀物の自家飼料で440トン出荷、チーズ生産360トンを目指している。
- ▶主力製品のチーズは世界の数々の賞を受賞しており、国際的にも品質が高いことを証明
- ▶安全で美味しいチーズの高付加価値販売による経営の安定を目指し、様々なハンディキャップのある人と一緒に働くことができ、寄付や補助金に頼らない経済的な自立と持続可能な取り組みの実現

地域との関わりや交流

新得共働学舎は、知的障がい者や精神障がい者、不登校の児童や生徒など、家庭生活や社会生活が困難な人々を受け入れ、集団生活や農作業を通して、自立のための支援を行っていることから、地域内外の多くの人々の出入りが絶え間なくあり、共働学舎を訪れるチーズづくりや有機農業に関心の高い人々との交流も相まって、様々な人々との出会いの場を提供しています。国際的にも高い評価を受けたチーズ製造が有名になってからは、レストランと売店を兼ねた交流センター「ミンタル」には、観光客も訪れています。

そして、共生社会の実践やストレスの少ない暮らし方が、共働学舎の中から地域に波及して、共生型の町づくりにも少なからぬ影響を与えています。一方で、チーズが通販でも人気商品に成長したことで、地域に限定されない消費者との関係性も構築されることが、場合によっ

ては地域との一体性が軽視される懸念も一般的には生じてきます。しかし、新得共働学舎では、代表が地域の役員を積極的に引き受けることや、人手不足で経営に困難をきたしている酪農家に共働学舎で技術を習得した障がい者を就職させるなど、共働学舎の中に留まらずに地域の酪農業を支援すること

一日の作業

- 作業時間は、9～12時および14～17時の6時間
- 酪農作業をするメンバーは、朝4時30分からパーラーでの搾乳作業、牛舎の清掃作業
丁寧な掃除、機械の運転の可否による作業の差はあるが全員が動物との接し方に熟達
- 農場には様々な仕事がある。例:畑(野菜づくり、出荷準備、販売など)、牛・豚・羊・馬の飼育、畜舎の管理(糞出し、清掃など)、工芸(とうもろこし人形の製作、工芸用の花栽培、羊毛草木染め、羊毛編み物)、木工(家具、日用品製作)、乳製品加工(チーズ、バター)、菓子製造(パン、クッキー)、交流センター「ミンタル」での物品販売、レストランの接客、事務、建築(住宅、小屋づくり)、家事(食事づくり、掃除、薪割り、食器洗い)など多種多様。
- 作業を通して自分に合った仕事を見つけ、担うことで自分の役割を見出すようにする。
- 農業の仕事は、畜産と野菜栽培が主体。
- チーズ、ソフトクリーム、クッキー、ケーキ、パンなどの加工、レストラン経営などの6次産業化の取り組みも実施。
- 農場内で生産される牛肉、野菜の直販も実施。



酪農



加工ほか

北海道

で、地域との関係性が深まっています。

触法者の受入時には地域住民の反発もありましたが、障がい者が一緒に働いて暮らせる場所づくりの実績は地域で高く評価されています。また、地域に特別支援教育の場を創るために、養護学校の新得分校の設置にも尽力するなど、地域の様々な課題の解決に大きく貢献しています。



交流センター「ミンタル」とガーデンの入口。レストランからブラウンスイス種が散歩している風景も。季節や曜日で提供種類が変わるチーズは人気メニューの一つ



メンバーの生活する住宅や単身者の寮（木の温もりのある生活感）

コラム

飲用生乳価格とチーズ向け生乳価格の差

現行制度では、チーズ原料の牛乳について、自家の搾乳をそのまま利用せず、指定生乳生産者団体制度により指定されている、地域の農協等に売却した後、チーズ原料の生乳を買い取ることでチーズ生産コストを削減することができます。チーズ向けの生乳については、脱脂粉乳やバター向けの生乳に加えて平成26年度から加工原料乳生産者補給交付金の交付対象に追加されたため、円滑な取引が可能になっています。こうした酪農経営全般を対象とする諸制度を、障がい者雇用に取り組もうとする酪農経営体が利用しやすくなるように運用することや該当する経営主体が積極的に活用できるようにすることが期待されます。



共働学舎の敷地内では随所に暮らす場に隣接した生産現場の風景が見られる

コラム

「鉄」と「電気」を生命体から遠ざけ、 「炭」の効用を体感

「鉄」も「電気」も近代的な生活に不可欠とされるものですが、常時身近に接することの悪影響を指摘する意見もあります。新得共働学舎の交流センター「ミンタル」は、木造建築とすることで「鉄」の使用を最小限にするとともに、カフェスペースの地下に高温で焼いた「炭」1トンが4ヶ所に分けて埋められています。来訪者やメンバーに、ストレスの少ない空間を提供する工夫が、こんなところにも施されています。ちなみに「ミンタル」とは、アイヌ語で「広場」とか「人の行き交う場所」という意味だそうです。

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者手帳 → p.57

関連情報

法人URL <http://kyodogakusha.org/>

所在地 北海道上川郡新得町字新得9-1



酪農



加工ほか

北海道

合同会社 農場たつかーむ

～障がい者と一緒に循環型農業を実践して地域をつなぐ～

北海道有珠郡壮瞥町

「合同会社農場たつかーむ」は、1987年に設立者である代表夫妻が、有機農業を志して山間部の離農跡地に入植し、1haの畑と50羽の自然卵養鶏を開始したことにルーツがあります。法人化は2006年、約30年前の設立当時には、障がい者の雇用を支援する制度は現在のように整備されておらず、職場適応訓練制度を活用して2年間で障がい者を雇用する農場経営を立ち上げました。そして、法定雇用率^{*1}を達成することによる報奨金を受けながら、1990年には雇用従業員6名、1,500羽の養鶏農場となりました。

「たつかーむ」の特徴は、共働きの理念を見失わずに、近代的な雇用契約を締結して障がい者を雇用する農場経営にあります。従業員寮の建設を機に個室生活となるなど時代にあった変遷をたどっていますが、養護学校の卒業生らを正式に雇用して、彼らと共同生活をしながら採卵養鶏と有機農業による野菜や飼料づくりの取り組み理念の実践は、現在まで長く続いています。

2001年には、7.5haの全圃場の有機JAS認証を取得。従業員に若手が多い年齢構成を利点に、耕作圃場と販路を拡大して、2009年には合同会社が多機能型事業所の指定も受け、障がい者の就労支援体制も一層強化されています。最近では、玉子料理を主体とするカフェも開店。現在では、養鶏3千余羽、「平飼いの有精卵」は札幌市内にも出荷されています。また、畑事業を強化して、大豆、ズッキーニ、ニンニク、大根など、豆類を中心にしつつ多品目を栽培するとともに、豆のドライ缶詰を生産販売しています。こうした6次産業化にも取り組みつつ、発酵鶏糞肥料を製造して「めぐみ」という名称でブランド化にも成功、安価に提供していることが地域の農業者との良好な関係構築にもつながっています。

法人経営概況

有機循環複合農業

①畜産

採卵養鶏[平飼いの有精卵の販売・出荷]

②複合部門の生産品目

野菜(大豆などの豆類、大根、ズッキーニ、ニンニク、ピーマン、トマトなど)、飼料。すべて有機農法による生産(JAS認証を取得)。

③その他

有機堆肥の生産販売、鶏肉くんせい(加工は食肉工場に委託)

豆のドライ缶詰生産販売、カフェレストラン

④主たる出荷先

生協、道の駅、レストランでの店頭販売

⑤従業員数

10名

⑥障がい者雇用

6名(就労移行支援事業の利用者)

上記のほか、就労継続支援A型事業の利用者を本人の希望により短時間雇用

⑦法人形態

合同会社 法人が多機能型事業所の認定あり

代表は認定農業者(畑作、養鶏)

障がい者の就労状況

- 1日6時間労働、個人の体調に合わせた勤務形態も採用
- 養護学校の新規卒業生の採用が中心、就学時に日常生活の自立を徹底指導。
中途採用もあり。若手も多い年齢構成。
- 障がい者と一緒に作業をすることで作業方法や技能を伝授、習得
- 採卵養鶏、農産、カフェの部門別に担当
- A型事業が主体、就労移行支援を併設の多機能型事業所
- 別組織のNPO法人が従業員寮をグループホーム制度に則り運営。
ケアホームに
- 従業員は社宅やケアホームで生活、昼間の仕事をたつかーむが指導、支援
- NPO法人は、地域活動支援センターⅡ型事業
- 就業先の経営主は障がい者雇用を行い就労面での責任は持てるが、生活面での支援と責任所在が明確でないと経営主には不安が残り、障がい者雇用を推進する場合の抑制要因となることが懸念。

一日の作業

- 朝礼、ラジオ体操
- 9:30 鶏舎へ 給餌、水やり、採卵、鶏舎清掃、鶏糞だし など
- 採卵後 作業室室内で 洗卵、パック詰め
- 鶏卵部門は13人;仕事は任せておける習熟度
- 制限給餌は効率的であるが「シンプルで分かり易い作業」にするため多めの給餌
- 120g/羽・日(120kg/1,000羽)約100羽の鶏舎1棟に12kg給餌



鶏卵

加工ほか

北海道



採卵直後の鶏卵を洗卵機を使って洗浄、
パック詰め作業



平飼いの鶏舎では、ストレスの少ない養鶏が行われている



広大な区画の畑で、有機農業により栽培した野菜を収穫する利用者ら

■ 地域との関わりや交流

自治会や養護学校職親会の役員などを積極的に引き受けることにより、地域との緊密な関係性を構築してきました。養護学校の卒業生の定着率は極めて高く、農場設立初期からのメンバーが主力となって経営を支えています。カフェはランチタイムに地域の常連客も多く来訪して盛況です。道路沿いの農産部門の施設では、発酵鶏糞肥料を販売しており、安心安全な良質の堆肥として、地域の農業者に好評を得ています。

グループホームや相談部門の運営、地域活動支援センター事業の受託などを行うNPO法人を、農場経営の合同会社とは別法人として設立することで、農業分野と福祉分野を橋渡しする役割も担ってきました。障がい者の雇用創出を行い、地域の障がい福祉に関する相談先としても貢献しています。また、地域の就業・生活支援センターとも日常的に情報交換を行い、職親会を通した卒業生の進路に関する養護

学校との緊密な関わりはもちろんですが、地域の社会福祉施設の利用者の実習を受け入れたり、個別経営農家からの農作業委託業務を施設外就労の仕組みを活用して事業所との橋渡しをしたりすることで、農福連携の役割も担っています。



カフェでは有精卵など自家製品の物販も。



有機循環複合農業の象徴である
鶏ふん「めぐみ」の販売所



合同会社や福祉事業所の加工食品のほか、従業者や利用者の母校の高等養護学校の窯業科の作品も売られている道の駅・観光物産館

障がい者就労に関わる用語

※1 法定雇用率 → p.57

関連情報

法人URL <http://tatukam.jp/>

所在地 北海道有珠郡壮瞥町字立香92-12

コラム

障がい者就労に関する北海道伊達高等養護学校の大きな貢献

北海道では雪の期間が長いために遠距離通学が困難であるという環境もありますが、寄宿舎生活を通して日常生活の自立を徹底して指導することにより生活力を育てることが、生徒の卒業後の進路決定に大きな力となっています。根気強さや礼儀正しさ、健康や安全に関する正しい知識と態度、そしてコミュニケーション力の習得は、社会生活や職業生活に関する知識や技能を身につける上でも重要です。農業科を含む6学科構成と現場実習を重視したカリキュラム編成により、卒業までの年次を追って知識や技能を深めていく指導体制は、職員数と生徒数が1対1に近い比率で生徒1人1人を指導できることと相まって、個性を尊重した進路指導につながっていると認識されます。こうした教育分野からの支援体制の充実は、雇用先の畜産経営現場での卒業生の定着にも実を結んでいると言えるでしょう。